

# 芦屋市

## 外国人市民意見交換会

概要・令和7年度

芦屋市企画部国際文化推進室国際文化推進課 2026年3月発行

開催日：2026年2月7日（土）・3月7日（土）

会場：芦屋市役所 東館3階 災害対策本部室

ファシリテーター：Margarita Morales Flores

## 開催日程

日時	時間	テーマ
2026年2月7日（土）	10:00-12:00	芦屋市における外国人市民の課題と可能性
2026年3月7日（土）	10:00-12:00	芦屋市における外国人市民の多文化共生の促進

## 実施形式

各回は、芦屋市役所東館3階の災害対策本部室において、土曜日の午前10時から12時まで実施されました。議論は英語を主言語として行われ、必要に応じて日本語への要点通訳が行われました。

進行形式は、ファシリテーターによるグループ討議と、各セッション終了時に行った個人記入式リフレクションシートを組み合わせたものです。この形式により、話し合いの場での発言と書面による回答の両方から、より幅広い意見を収集することができました。第1回は継続する課題とその背景要因の把握を目的とし、第2回は地域レベルでの具体的なアクションと実現可能な第一歩の検討に焦点を当てました。本報告書の本文中、参加者の発言はすべて匿名で記載しています。

## まとめ・提案

以下の提案は、両セッションを通じて一貫して浮かび上がったアイデアと方向性をまとめたものです。芦屋市の多文化共生施策の検討材料として提示します。課題の中には短期的に対応できるものもあれば、長期的な取り組みや広い社会的変化が必要なものもあります。

### 提案のまとめ

番号	分野	主な方向性
1	情報発信	市役所1階への多言語窓口設置・わかりやすい案内・デジタル情報のAI対応
2	生活オリエンテーション	転入者向け生活ガイド・繰り返し参照できる形式・デジタル提供
3	日本語学習支援	有資格講師によるクラス・ニーズ別講座・柔軟なスケジュール
4	地域交流	継続的・参加しやすいイベント形式・市の行事を活用・ボランティア経路
5	コミュニティ・コネクション・グループ	外国人市民による組織化グループ・市の職員が窓口として支援
6	継続的な対話	定期的な意見交換会・リフレクションの活用・過去の提案のフォローアップ

### 1. 情報発信について

- (1) 市役所の3階への案内表示のみに頼らず、1階に多言語対応の明確な窓口を設け、転入者が来庁した際に利用可能なサービスや資源を確実に伝えられるようにする。
- (2) ごみの出し方・学校手続き・地域のルール・利用できるサービスなど日常生活に必要な情報を、転入時だけでなく繰り返し参照できる形にまとめたオリエンテーション資料を整備する。定期的に更新可能なウェブページなどデジタル形式も検討する。
- (3) 重要な公式書類への多言語情報の添付を進めるとともに、主要なウェブコンテンツをAI翻訳ツールに対応した形式に整備する。

### 2. 日本語学習について

- (4) 現行のボランティア教室を補完する形で、有資格の専門家が指導する体系的な日本語教室を開設する。
- (5) 読み書き、医療用語、高齢者向け会話など、ニーズ別の講座を充実させ、通所が難しい市民のためのオンライン形式を含む柔軟なスケジュールを設ける。

### 3. 外国人への支援について

- (6) 外国人市民が地域活動に参加しやすくなるよう促進するとともに、知識・語学・経験などを活かして貢献できる機会を設ける。
- (7) 市への登録時に、一般的な分野にとどまらず市民の専門性や具体的な関心分野を把握し、イベント・ボランティア・メンタリング活動への適切なマッチングに活かす。

### 4. 地域とのつながり・交流について

- (8) 月1回のマルシェ、既存の市のイベントへの文化ブース出店、ヒューマンライブラリー形式の交流など、気軽に参加でき、継続的に開催される多文化交流の機会を支援する。
- (9) 市の広報紙に外国人市民の経験や文化を紹介するコーナーを設け、日本人市民への理解を深める機会とする。
- (10) 外国人市民のニーズの変化を把握し、過去の提案のフォローアップにつなげるため、定期的なアンケートを実施する。
- (11) 意見交換会を今後も定期的で開催する。

### 5. コミュニティ・コネクション・グループについて

- (12) 外国人市民を中心とする小規模な「コミュニティ・コネクション・グループ」の試行的な設置を検討する。市役所の担当職員がサポートしながら、地域の取り組みを調整・継続できる組織化グループとして機能させる。
- (13) グループの目的を明確にし、透明性のあるコミュニケーションと市からの継続的なサポートを確保する。
- (14) 小規模な調整であっても、担当者の確保・予算措置・窓口の明確化が必要であることを認識する。

以上に加え、市と市民・地域団体・兵庫県・国が連携しながら、これらの課題の解決に継続して取り組むことを期待します。意見交換会に参加した外国人市民も、芦屋市の一市民として、ともに取り組んでいきたいと考えています。

---

事務局：芦屋市企画部国際文化推進室国際文化推進課